



# ハイナイト祈祷課題 2024年5月号

## 1. ガザで拘束中の人質たちを覚えて

ガザ拘束中の人質は、現在129人。解放された人質たちは、体験を告白していますが、その重い表情は、今も続く苦悩を物語っています。しかしサピル・コーヘンさんは、笑顔さえも見せて体験を語りました。今月は、彼女の証しをご紹介します。祈ります。

「私は55日間ガザで拘束されました。テロの前、私は悪い事が起きる予感に悩まされ、体調も悪く、病院で検査を受けました。そして人生で初めて祈ることにしました。するとインスタグラムで『30日間、詩篇27篇を読むと、健康になり、奇跡が起こります。』という投稿を見つけました。

その日から、毎日詩篇27篇を読みました。そして、最後の週、この祈りは、癒やしのためではなく、神が敵から私を救うという戦いのための祈りだと分かったのです。そして、30日目が10月7日でした。

その朝、爆発音で目覚め、テロリストたちが家々を襲い、人々を殺していくのが分かりました。私はベッドの下に隠れ、震えながら自分の番が来るのを待ちました。その時、祈り続けた詩篇の意味が分かったのです。みことばを告白すると心の奥で平安を感じました。そしてついに、テロリストが家に入ってきて、私はガザに連れて行かれました。

ガザに到着すると、大勢の市民が私に触り、殴りかかってきました。「神さま、私はここで死にたくない」と祈りました。するとテロリストは私を生かしておくほうが良いと判断して、群衆から私を助け出しました。

1カ月は民家で、もう1カ月は地下トンネルで過ごしました。状況は過酷でしたが、毎日奇跡を体験しました。最大の奇跡は、なぜ私がここに連れて来

られたかを理解したことです。私は、16歳の少女と一緒に。おびえて泣いている彼女を見てこう祈りました。「神さま、私がここに来た意味が分かりました。私は彼女を守り、笑顔にしたいのです」。その瞬間、不思議な力が湧いてきて、毎日どんなに悪いことが起きても、楽しみに変えることができたのです。少女もテロリストも、なぜ、私がハッピーでいられるのかと不思議がっていました。

ある日、テロリストがろうそくの絵を書き、そのろうそくに私の名前を書きました。私は怒り、なぜ、私の名前を書いたかと聞くと、テロリストは言いました。『お前は敵だ。でも、お前が来てから、この場所に光がともされている。』

私は、毎日3つの告白をしていました。一つ目は、詩篇27篇。二つ目は『神さま、私をここに遣わして下さりありがとうございます。あなたからの力を感じているからです。私自身と他の人質たちを守るために、この力をどう使うか私は知っています。三つ目は「神さま、この地獄に天使を送って下さり感謝します」

解放後、世界中の人々が祈っていたと知りました。私が感じていた天使たちは、幻想ではなかったと知ったのです。

残念ながら、他の人質は天使を感じていません。塩水を飲んで、体を壊す人。食べ物は毎日ピタパン1枚だけ。深刻な病気の人や、テロリストに殴られ、撃たれた人もいますが、適切な治療を受けていません。85歳の男性はテロリストに殴られて亡くなりました。人質たちは、家族の生死も知らず苦しんでいます。彼らには時間がありません。生きて帰るためにあらゆる方法で全力を尽くすべきです」

**主は私の光 私の救い。だれを私はおそれよう。主は私のいのちの砦。だれを私は怖がろう。待ち望め 主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め 主を。(詩篇27:1、14)**

- ①イスラエル政府と国防軍及び救出に関わるすべての人々に、神の知恵が与えられ、一刻も早い救出がかなうように。
- ②テロリストの暴力や性的暴行、飢え、病やけが、絶望から人質が守られるように。
- ③人質たち、生還を待つ家族にも、主が現れて下さり、生き続ける希望と力が与えられるように。

## 2. 日本の防衛を覚えて

日本は、戦後80年近く平和を享受してきました。しかし、戦争はある日突然、勃発するものであることを、ロシアとウクライナの戦争、ハマスのイスラエル攻撃で、私たちは目の当たりにしま

した。

日本も安泰とは言い切れません。北朝鮮は昨年、過去2番目に多い、25発の弾道ミサイルなどを発射しました。その技術力は確実に向上しています。

北朝鮮の大陸間弾道ミサイルは、今やアメリカ全土を射程に収めると言われます。北朝鮮製の兵器は、テロ組織ハマスの手にも渡り、イスラエルへの攻撃に使われました。朝鮮中央通信によると、金正恩総書記は3月、軍に対し「戦争準備の完成に拍車をかけなければならない」と命じました。

また、中国の沿岸警備隊の船は尖閣諸島沖で、

頻繁に日本の領海に侵入しています。日本の漁船にも執拗につきまとうため、この海域で漁業をする船は減少しました。

日本は、今年度の防衛費を大幅に増やし、防衛力を強化する予定です。しかし、最大の防衛力は私たちの祈りです。日本があらゆる有事から守られるよう、心を合わせて祈ってまいりましょう。

**ある者は戦車を ある者は馬を求め。しかし私たちは 私たちの神 主の御名を呼び求める。(詩篇20:7)**

- ①主が日本の防衛力を支え、防衛関係者に必要な情報と知恵をお与えくださるよう。
- ②日本を防衛する方々を主がお守りくださり、日本が守られるように。
- ③クリスチャンが、日本の平和を求めて祈り続けることができるように。

### 3. 戦時下におけるBFPの新移民支援を覚えて

10月7日の直後、ハマスの激しい攻撃の中で、世界中のユダヤ人が、イスラエルを守るために帰還しました。10月7日は、多くのユダヤ人にとって、ユダヤ人としてのアイデンティティーを考え、帰還を決断する転機となりました。実際、昨年10月から年末の3カ月の帰還者は、約6500人。帰還申し込みは、昨年の同時期に比べて、北米では2倍、フランスは5倍に達しました。

激しさを増す反ユダヤ主義も帰還の理由です。世界各地で大規模な反イスラエルデモやユダヤ人への暴力、人質救出のポスターを剥がす嫌がらせも起こっています。たとえ戦時下でも、「イスラエルこそが、ユダヤ人にとって最も安全な国」とよく言われます。

この時代、神さまはみことばの通り、ユダヤ人を約束の地に戻しています。ウクライナ、ロシ

アからの帰還も続いており、戦時下の国から、戦時下のイスラエルに帰還する人々が後を絶ちません。BFPの願いは、こうした嵐を通り抜けて到着した人々の心に寄り添うことです。皆様の代表として、笑顔とハグと尊敬を持ってお迎えし、物質面でも支えています。



戦時下のイスラエルに帰還する人々が後を絶ちません  
Photo by Michio Nagata/Bridgesforpeace.com

**それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしはあなたがたを諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。』(エゼキエル11:17)**

- ①イスラエルで、人生の再出発をする人々の心に、主が慰めと励まし、希望を与えてくださるよう。
- ②多くの必要のある中で、BFPが、一人でも多くの新移民を支えらえるように。
- ③激しい反ユダヤ主義が世界を席卷する中で、主の愛をもって、イスラエルを愛し、とりなすクリスチャンが増し加えられていくように。

「ハイレイトソング」

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」

祈りの第一声として  
祈禱課題をお届けします(不定期)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: [www.bfpj.org](http://www.bfpj.org)

ハイレイトに関するお問い合わせ: [chainight@bfpj.org](mailto:chainight@bfpj.org)